

平成29年度 学校評価実施報告書

学校名（大枝小学校）

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

- わかる学習・できる学習を通して、基礎的・基本的な内容を確実に身に付ける。

具体的な取組

- ① 大枝中ブロック「学び方のガイドライン」をもとに一貫した学習態度・学習規律を徹底する。
- ② 基礎的基本的な知識・技能の定着を目指したノート指導・指導方法の工夫を充実させる
- ③ 「めあて」「ふりかえり」を明示した授業展開ならびに指導と評価の一体化を心がける。
- ④ 繰り返し学習・補充学習（チャレンジタイム・スキル学習・放課後学習など）を充実させる。
- ⑤ 表現力を高める言語活動の工夫に力点を置く。
- ⑥ I C T（デジタル教科書・ミエルもん等）活用をさらに進め、特に低位の児童にとって「わかりやすい、気づきを得やすい」授業を構築する。
- ⑦ 支援の必要な児童への効果ある支援と合理的配慮を行う。
- ⑧ 教職員間の学び合いや情報交流を促進し、方向性の一致と方法の共有を基盤に、チームとして学力向上を目指す。
- ⑨ 家庭との連携を強化し、家庭学習の定着をはかる。
- ⑩ 地域人材や環境資源の活用を図る

(取組結果を検証する) 各種指標

京都市ジョイントプログラム・プレジョイントプログラム結果、全国学力・学習状況調査結果
 教職員アンケート・教室観察チェックシート・・・①②③④⑤⑨
 観察・研究報告・・・⑥⑦⑧
 保護者アンケート・・・①⑨⑩

各種指標結果（1回目）

- ・大枝中ブロック「学びのガイドライン」について、保護者アンケートで認知度が低い（知っている31.2%）ことが明らかになった。
- ・学習確認プログラム（中1、4月）・全国学力・学習状況調査（4月）で課題であった本校児童の学力定着は、ジョイントプログラム（9月）では、若干の改善が見られた。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より小中一貫教育の一つの柱としてスタートした「学びのガイドライン」については、教員自身が常時意識し徹底する姿勢がなくては浸透しない。教職員の自覚を高めることが先決。 ・学習確認プログラム（中1、4月）・全国学力・学習状況調査（4月）では、国語ABで2%，算数Aで5%，Bで3%，京都市平均を下回っている。標準化得点で過去5年間の推移を見ると、平成25年度を最高として、26年度以降じわじわとV字回復している途上にあるが、算数科は依然標準化得点98のまま横這いで改善できていない。 ・ジョイントプログラム（9月）では、若干の改善が見られ、中学年までの落ち込みが高学年になるにつれ、徐々に改善される傾向がはっきりした。
------	--

分析を踏まえた取組の改善

- ・前期終了までに「学びのガイドライン」の再周知を図り、家庭との連携を強化する。（1. 朝会での児童への講話で取り上げる 2. 各学年のおたより・HPでふれる 3. 学級懇談会の話題として取り上げる）

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の校内研究のテーマに沿い、力をつける単元計画と毎時間の指導の工夫を続ける。 ・ノート指導・板書計画を継続する。 ・児童のこまが予測される場面でこそ、視覚支援やICT活用を心がける。 		
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「勉強がわかりやすい」と回答しているのは、先生方の努力によるものだと思う。落ち着いた学習環境の中で児童が授業に臨めているのはありがたい。 ・昨年度の課題の項目であった「家庭で宿題や勉強をしているかどうかどうか」を問う項目では90%以上ができるとの回答であった。終わりの会などで今日の宿題のやり方を全員で確認するなどの細かな指導がこの結果をもたらしたのだと思う。今後はさらに児童一人一人に合った宿題の出し方を考えていただき、家庭学習習慣づくりに取り組んでいただきたい。 ・放課後まなびでの学習のようすを見ていると、宿題がパターン化しているように思う。もっといろいろな工夫した宿題を出すとよいのではないか。また、児童も宿題ができたら終わりという姿勢で、自ら課題を見つけて自主的に学ぶという姿が見られない。このことも大枝の弱点ではなかろうか。 		
評価日	平成29年10月24日	評価者	大枝小学校運営協議会委員

各種指標結果（2回目）

- ・アンケート「あなたは家で宿題や勉強をしていますか」の項目では、児童・保護者とも重要度、実現度とも数値「6」以上という結果になった。
- ・ジョイントプログラム(1月)では、5年生2教科を除き、全市平均を下回る結果となった。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に平均を下回る。特に、理科の落ち込みが目立つ。理科学習の充実が急務である。 ・重点目標である「家庭との連携を強化し、家庭学習の定着をはかる。」については、ほぼ目標を達成できたと考える。この結果を学力定着にどのように結び付けていくかが課題である。一方、学びのガイドラインの浸透はまだまだである。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・めあてと振り返りの明示はあるが、真に、ゴールを意識して、単元全体をゴールへの意欲が貫いているような主体的意欲的な学びにはまだ届いていないので、今後もそのような授業を創出する努力を継続する。また、めあてが達成可能（評価可能）表現までかみくだけていないので、指導事項を絞り込み、指導内容を明確にする。 ・児童が学習の流れを把握し、見通しを持って取り組むことができるようとする。 ・理科における教材研究や授業研究に努め、落ち込みを解消する。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着が図ってきたことは子ども達の学力向上を支える上で必要不可欠な事だと思う。さらに家庭との連携を密にして学力定着を目指してほしい ・子どもの声、保護者の声からは、わかりやすい授業や楽しい授業を心がけてもらっていることがわかる。今後とも、質の高い教育を展開して、大枝の子の学力を高めていってほしい。 ・授業も大事だが、子ども新聞を各教室に置くなど、PTAが協力できることもあると思う。学校への児童活動補助費の内容を考えてはどうか。
	評価日 平成30年3月1日 評価者 大枝小学校運営協議会委員

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- ・自他の「いのち・こころ・からだ」を尊重し、おもいやりをもって行動する人間性を培う。
- ・他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心をもって行動する人間性、社会性を培う。

具体的な取組

- ① 自他を大切にする学校風土を形成するため、ていねいな言葉づかいと心のこもった挨拶から穏やかな人間関係を形成する。
- ② 相手に伝わるように話すこと、最後まで聴くことの徹底から相手を大切にすることを感得させる。
- ③ わかる」「できる」学習や「どきどき」「わくわく」する体験を意図的に設定して、お互いに認め合い助け合える学習活動を創出する。
- ④ 「やり切る・がまんする・ゆずる・責任を果たす」などといった非認知能力の育成をめざす。
- ⑤ 自己肯定感、自己有用感などの自尊感情が高まる学級づくりを進める。
- ⑥ 保健教育・安全教育と道徳教育・人権教育を連動させながら、心の教育を推進する。
- ⑦ 特別活動（異年齢集団での活動・宿泊行事・学級活動等）を通して、仲間づくりを進める。
- ⑧ 学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚して、連携しながら、心の教育に取り組む。
- ⑨ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、その他関係機関と連携し、それぞれの専門性を生かした取組を工夫する。

(取組結果を検証する) 各種指標

各種調査での児童質問紙

教職員アンケート・教室観察チェックシート・・・②③④⑤⑥⑨

児童アンケート・クラスマネジメントシート・・・①④⑤⑦

スクールカウンセラー報告・・・⑨

保護者アンケート・・・①②⑧

各種指標結果（1回目）

- ・学テ質問紙、児童アンケート
- ・クラマネ、いじめアンケート
- ・教職員アンケート

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えを友達に伝えることが楽しいと感じていない児童が 25% と児童の 1/4 を占めた。また学校が楽しい場ではないと感じている児童が 10% に達している。本校児童数 300 人と考えると 30 人がそのように感じていることに危機感を感じ、個別の対応を早急に実施した。一方、友達と仲良く遊び助け合っていることについては 90% の児童がそう思うと感じているのは、昨年度からロング昼休みに外遊びをする取組の成果でもあると考える。・クラマネの結果では、クラスの安らぎに関する指数が高く、総じてどのクラスも子どもたちにとって居心地の良いものになっている。学級経営がうまくいくことは豊かな心を育む上でも学力向上にとっても望ましいことだと考える。

分析を踏まえた取組の改善

- ・「わかる」「できる」学習の再構築から児童の自信を創出する。
- ・人間関係形成能力（コミュニケーション能力・自己肯定感・挨拶・感謝・協力・信頼）の育成を基盤にした授業づくり、学級づくりを進める。

	<ul style="list-style-type: none"> ・スマイル集会など児童会活動を活性化させ異学年の児童が互いに思いやる心をもち、協力して活動できるようにする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の90%以上の児童が「学校が楽しい」という結果であったが、「学校が楽しくない」と思っている児童がたとえ1人でもいるならば、その児童の困りに丁寧に対応していくことが大切だと思う。また、昨今児童に対する虐待などが社会問題となっている。家庭が楽しいところであるかというアンケートだけでなく、児童に「家庭は楽しいか」と問うなど、一人一人が家庭で大切にされているかも確認したい。 ・挨拶については、日常のようすから児童・保護者ともに「意識はしているがまだまだ」ととらえている。以前よりは良くなっているかもしれないが、やはりほとんど挨拶しない。保護者も同様である。児童はこれから地域を担っていく存在である。目標は「卒業後も挨拶をする子ども」である。そのような姿になるまで、家庭・地域・学校で連携して挨拶の大切さを広めていきたい。
評価日	平成29年10月24日

各種指標結果（2回目）

- ・アンケート「大枝小学校はあなたにとって楽しいところですか。」では児童・保護者の重要度、実現度とも指数「6」を大きく上回る結果となった。
- ・クラスマネジメントシート③の「友達とのつながり」では他の項目に比べてどの学年とも指数が低い結果になった。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> 多くの児童が楽しく充実した学校生活を過ごしているようだ。ただ、悩みをもっていると答えた児童も一定数おり、何か悩みがあって楽しくないと思っている児童もいるということも忘れてはならない。児童が悩みや困りを抱え込まないように今後もしっかりと見守っていく必要がある。 友達とのつながりについてはどの学年も課題を抱えているようだ。確かな児童理解に基づいた「学級づくり」について、豊かな心委員会を中心に、深く検討していくことが大切である。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 今年度も2回教育相談週間を設定した。短時間ではあるがひとりひとりの児童理解に迫ることのできる機会である。来年度もしっかりと継続していく。 学級経営を行う上で最も重要なことは学級の児童一人一人の実態を把握することである。日ごろから、児童に自己決定の場を与え、その時その場で何が正しいかを判断し、自ら責任をもつて行動できる力をつけていく取組を模索し、関連研修を充実させたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 来校した時に、子どもたちが意欲をもち、とても良い姿で活動していることが感じられ、うれしく思っている。しかし、アンケートの結果を見るとその中でも悩みを持っている児童が一定数いることがわかった。難しいかもしれないが、児童一人一人の悩みに耳を傾け、見守ってほしい。 クラスマネジメントシート③の「友達とのつながり」の他の項目が気になる。いじめがないかしっかりと見ていく必要がある。
評価日	平成30年3月1日

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

健康や安全に留意して生活し、進んで運動に親しむ態度を養う。

具体的な取組

- ① 「早寝・早起き・朝ごはん」等望ましい生活習慣を自ら実践する力を定着させる。
- ② 体力づくりや食育を通して主体的に健康的な生活を送る基礎・基盤をつくる。
- ③ 楽しい体育（めあて学習）、運動量を確保した授業の構築。
- ④ 教科体育や部活動、ラジオ体操、業間の運動、学校行事を通して、基礎体力の向上を図るとともに、生涯にわたって運動に親しむ習慣を形成する。
- ⑤ 特に、飲酒、喫煙、薬物の有害性・危険性については、正しい知識と将来にわたる判断力を身につけさせるため、保健、道徳、特別活動での関連した指導や薬物防止教室を実施する。
- ⑥ 交通事故や水難事故、熱中症、転落事故など日常生活の中の様々な危険から自分を守るために知識と判断力を身につけさせる。
- ⑦ 緊急時集団下校訓練や子ども引き渡し訓練等を、地域と連携しながら実施し、自分の身は自分で守るとともに地域全体でつながりをつくることがより健康的で安全なより良い暮らしに必要であるという思いを育む。

(取組結果を検証する) 各種指標

全国体力・運動習慣テスト、すこやか週間健康アンケート・・①②④

欠席状況、保健室来室状況、スポーツ振興センター申請状況

教職員アンケート・・③⑤⑥⑦

保護者アンケート・・①②

各種指標結果（1回目）

- | | |
|------------|---------------|
| ・学校評価アンケート | ・健やか週間健康アンケート |
| ・生活アンケート | ・欠席状況・保健室来室状況 |

どのアンケートについても、健康・安全に関する項目に対する意識は高く、また実践していると答える児童の割合は高い。これまでの取組が生きていると思われる。

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none">・早寝、早起きの項目では、高学年児童の半数が就寝時刻 22 時以降となっている。朝起きられない、気分がすぐれない、授業中眠くなるという児童がいることの多くは、このことに起因していると考えられる。・ろうか・教室でのけがは減少傾向とはいえ、廊下を走っていての衝突による打撲も皆無ではなく、更なる徹底が必要。・朝体調がすぐれず、様子を見ていてそのまま休むといい児童が複数いるが、体調だけでなく心理状態や家庭の養育状況に着目して対応していく。・日常的に体を動かすことそうでない子の二極化がみられる。・週初めのラジオ体操では、「体がすっきりする」と答えた児童が 81%にのぼり、取組の定着と心身への一定の効果が読み取れる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・睡眠時間の確保の重要性を児童にしっかりと指導するとともに保護者にもお便りや懇談会の場などで啓蒙し、本気で取り組んでもらう。
- ・廊下や教室でのけがは防止することができるものである。児童への指導の徹底と教職員の指導の

	<p>温度差をなくし、教職員全員で声をかけていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操やロング昼休みなど日常の中に体を動かすこと機会を積極的に作る。 		
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の様子を見ていて、どの児童も競技や演技だけでなく、他学年を応援することや係の仕事を一生懸命にやりきるなど、目を輝かせて何事にも懸命に取り組むようすがわかった。応援団を中心にみんながまとまっていて、学校全体の一体感を感じた。 ・「ジャンプアッププロジェクト」という京都市の指定を受けていることを学校便りで知った。健康づくり・体力づくりはとても大切だと思うので、本校で取り組んでいる「ジャンプアッププロジェクト」の様子などを、もっと地域に発信していったらいいと思う。 ・携帯電話・スマートフォンの使用にあたっては、その特性を理解し節度を守らなければトラブルに巻き込まれるこが十分に予想される。所持状況について学校も保護者も状況をもっと把握し、危険性を大人自身が学習すべきだと思う。 		
評価日	平成 29 年 10 月 24 日	評価者	大枝小学校運営協議会委員

各種指標結果（2回目）

- ・学校評価アンケート「あなたは健康や安全に気をつけて生活していますか。」項目では児童・保護者・教職員とも重要度が指数「6.5」を上回る結果で、関心が高いことがわかった。
- ・学校評価アンケート「あなたはふだん外で体を動かして遊んでいますか。」の項目では指数をみると「できている」「だいたいできている」の結果となった。

自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も昨年度までの取組を継承し、ラジオ体操、保健の日、安全の日に積極的に取り組んできた。これらの取組を続けることで、確実に健康や安全に対する意識は高まっている。今後も大枝の伝統として健康・安全に関わる取組を継続する中で、生涯に渡って生きる力～児童がより主体的に自らの健康・安全について考え、判断し、実践していく態度～につながると考えられる。 ・京都市教育委員会「ジャンプアップ研究推進事業」研究推進校の指定を受け、遊び集会やロング昼休みをはじめ、子どもたちの外遊び推進のために様々な取組を進めてきた結果、児童が体を動かすことの楽しさを感じ、運動好きな児童が増加した。
--------------	---

分析を踏まえた取組の改善

- ・ラジオ体操、ロング昼休み、安全の日等、健康安全教育の研究で取り組んできた取組を今後も続けていく。
- ・良い生活習慣や運動習慣と学力の相関関係など、健康で自律的な習慣を身に付けることでどのような効果があるのかを示し、自主的・自律的な生活態度を育てる。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操や保健の日の取り組みが根付き、児童の健康に対する意識が高まっていることはありがたい。それがアンケート結果に表れている。 ・児童と遊びとの間に距離を感じるという副教頭の話を聞いて、自分たち子どもの頃の様子との違いに驚いた。「ジャンプアップ研究推進事業」が遊びと児童とを結びつける効果あるとわかり、この取組の重要性がよくわかった。大枝小の児童がより運動好きな児童になり、体を動かすことの楽しさを通して、お互いが分かり合えるような関係になってほしい。 		
評価日	平成 30 年 3 月 1 日	評価者	大枝小学校運営協議会委員

(4) 学校独自の取組

重点目標

家庭教育力の向上を目指す。

具体的な取組

- ① 学校教育への関心を高める働きかけ（開かれた学校、社会に開かれた教育課程）
- ② 望ましい生活習慣づくりへの働きかけ
- ③ 家庭学習習慣づくりへの働きかけ
- ④ 家庭での読書習慣づくりへの働きかけ
- ⑤ スマホ教室、非行防止教室、薬物乱用防止教室等の参観と公開

(取組結果を検証する) 各種指標

- HP アクセス数、参観・懇談参加人数・・・①②③④⑤
- 観察・教職員アンケート・・・③④⑤
- 保護者アンケート・・・①②③④

各種指標結果（1回目）

- ・参観人数は低学年で7割、高学年で3割。宿泊学習の説明会でも8割程度。HP アクセス数は平日平均で児童数の1/3以下、家庭数の1/2未満。
- ・家庭学習について、「そう思う」が前年度比、児童60%・保護者20%向上している。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートではどの項目も9割以上が肯定的であり、PTAや学校行事への協力依頼にも、必ず必要人数が出ていただから、協力的でないとは言えない。しかし、時間的・精神的に余裕のない家庭が多いことは日常的に把握でき、全校児童の7割近くが学童保育に直帰する現状からも、学年だよりやHPを通じて学校の様子や方針をわかりやすく伝えることが大切である。 ・家庭学習について、確かな学力委員会（昨年度研究委員会）を中心に、昨年度から協議してきた。今年度は当初から全体で足並みをそろえ発達段階に応じて内容を変えていくような取組を行い、保護者へも働きかけを多くしたことの成果として、6割の児童が「大体そう思う」から「そう思う」へ向上したと考えられる。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃忙しくて学校に来にくい家庭にこそ、学年だよりやHPを通じて学校の様子や方針をわかりやすく伝えることを心がけ、学校教育への関心を高め、理解と協力を引き出すように努める。 ・学力向上と規律ある生活態度の育成を念頭に、家庭の教育力を引き出す働きかけを意識した取組を行う。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・行政からは「こども食堂の開催」の要請を受けていることもあり、地域には貧困の問題や家庭教育力に課題のある子どももいるのではないかと心配している。今後、身近にも起こり得るだろうし、地域全体で考えていかなければならない問題だと感じている。 ・PTAには学校の教育をサポートする上で、予算や積立金を活かしてほしい。例えば、こども新聞を購読継続する費用を賄う等の教育的な取組や支援を考えると良いのではないか。
	評価日 平成29年10月24日 評価者 大枝小学校運営協議会委員

各種指標結果（2回目）

- ・人権啓発の参観・懇談では、参加者はとても少ない。特に懇談会は、ほとんどの学級が2~3名なので、実施的な啓発にはなっていない。反対に年度末の参観・懇談のように、発表会形式の授業のとき

<p>は非常にたくさんお見えになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「あなたは自分の携帯電話（スマートフォン）をもっていますか。」の項目では「持たせる、使わせる」家庭が今年も増加している。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校保護者は、「通常の授業」ならびに「人権教育や薬物乱用防止教育等の現代課題」にはあまり興味はなく、従前からの発表会のようなものを好まれる。家庭学習へも熱心ではない。 ・携帯電話（スマートフォン）の所持率の増加を受けて学校として、PTAとして、保護者として、地域として、どうしていくか、それぞれの立場と責任を問われている。 ・学校HPアクセス数はこの2年間で上昇を続け、一昨年度からは倍増している。学校便りも地域の方はよく読んでくださっている。このような媒体を通して、学校の取組や家庭学習の大切さを知ってもらうことが大切である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いは理解しながらも、学校として果たすべきことが目に見え、実績もあげていることが実感できるような働きかけを仕組んでいくことも、家庭の教育力をじわじわあげていくためには重要。 ・学校HPや学校だよりでは、地域連携と家庭教育力の向上を意識して記事を書いていく。 ・増え続けるスマホ等の所持に対して、学校では、情報教育の一貫として、ネットいじめやインターネット上の違法・有害情報から自らを守る力を身に付けさせるため、「ケータイ・スマホ教室」を継続し、危険性や依存性について指導していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校がすること、できることがあるのは理解している。地域としてやれることはやっていきたい。PTAとしても、様々な形で学校に協力していきたい。 ・働き方改革や教員の働き過ぎの記事を読むことがある。大枝小学校でも、例えば夜間・休日に電話対応できない等はあたりまえのことだし、時代の流れなので、留守電応答メッセージを流すとかはなさったらしいと考えている。 ・小学生なのに・・と思っていたが、今の親はケータイ・スマホを持たせることに抵抗がなくなっているようだ。学校では、十分に危険性を教えてやってほしい。
	評価日　平成30年3月1日